タイ人の怒りの誘因に関する面接調査

堀本美都子 1 米谷淳 2

(1 神戸大学大学院国際文化学研究科 2 神戸大学教育推進機構)

Key words: 怒り, 誘因, タイ人

目 的

本研究の目的はタイ人の怒りの誘因と社会文化的影響について検討することである。本研究では感情の社会構築論を理論的枠組みとして採用する。感情の社会構築論では、ある出来事に対して怒りを感じるかどうかは社会文化的要因に影響されていると考える。例えば社会で容認された道徳的行動に反する行動は怒りを誘発する原因となる (Cornelius, 1996)。したがって怒りの誘因を研究することは、その文化における社会的規範や価値観を研究することであるといえる。

方 法

■参加者： バンコク在住タイ人 20 名 (男性 12 名, 女性 8 名), 年齢 26~61 歳 (平均年齢 36.3 歳), 勤務経験 2 年以上。
■面接方法： タイ人面接者によるタイ語での半構造的手法による面接を行った。1 対 1 の対面式で、所要時間は 1 名につき約 30 分。面接中の発話を IC レコーダーで録音した。日常生活の様々な場面における怒りの経験について、「最近どのような場面で怒ったか」などを質問した。
■分析： グラウデッドセオリーアプローチに準じた方法で質的分析を行った。具体的には次の手順によって分析を行った。1. 録音した発話内容のテキスト化。2. 怒りを経験した場面の抽出。3. 各場面のテキストの切文化と各切文のラベル付け。4. ラベルのカテゴリー化。5. 全場面のカテゴリーの統合。

結 果

分析の結果、怒りの誘因に関するカテゴリーとして「出来事」、「相手の立場」、「怒りの理由」、「怒りの強度」が見いだされた。見いだされた 89 の出来事を分析の対象とし、怒りの誘因となった出来事と怒りの理由のカテゴリーを整理したところ、23 の怒りの誘因が見出された。次に、この 23 の怒り誘因を Averil (1982) の 6 つの区分に分類した (表 1)。

89 の場面において、対象者が怒りをどのように感じたかに言及している場面が 60 場面あった。対象者の発話表現をもとに怒りの強度を低・中・高の三段階に分類した。その結果、怒りの強度低が 25 場面、強度中が 18 場面、強度高が 17 場面あった。怒りの強度高は他人からの軽視 (プライド損傷) と仮区分された怒りの誘因の場合に最も多かった (表 1)。強い怒りを感じるのが最も多かったのは上下関係侵害であった。

89 の場面で怒りを感じた相手との関係を相手の立場 (目上・対等・目下) 及び所属集団 (家族・家族以外・知らない人) の組み合わせにより 7 つに分類し、相手の立場別の怒りの誘因をまとめたところ、怒り強度高の誘因は目上 (家族) では該当がなく知らない人に対する 5 つの場面で最も多く、次に多かったのは対等 (家族以外) に対する 4 場面であった。

考 察

調査の結果、タイ人は、目下の相手からの上下関係の侵害や仏教や王室の冒涇によって強度の怒りを感じる者が少なくないといったように、怒りの誘因がタイ人の社会道徳的な価値観に裏付けられていることが示唆された。また、強い怒りを感じた誘因が他人からの軽視と仮区分された誘因グループに最も多かった。タイ人の価値観に関する調査でタイ人がエゴ志向 (自尊心) を最も重視していることを見出した Komin

(1990) を基に、タイ人が自尊心への攻撃や侵害により強く反応しやすいからではないかと考察した。また、親に対して心配のあまり怒る場面があったが、親以外に心配を理由に起こるという場面は見られないなど、怒りを感じた相手の立場の違いによって、怒りの誘因が異なることが示唆された。

表 1 怒りの誘因別仮区分、場面数、および強度高の場面数。

仮区分	怒りの誘因	場面数	強度の怒り
自分の行動が妨害される	意見の対立	9	
	行動妨害	8	
	過干渉	7	2
	計	24	2
相手が思い通りに行動しない	不従順	15	
	相手の行動を心配	2	
	理解が悪い	2	
	計	19	0
社会ルール違反	列の割り込み	6	1
	規則違反	5	1
	仏教冒涇	3	1
	遅刻	2	
	王室冒涇	1	1
	親不孝	1	
	非協力	1	
	つばを吐く	1	
	計	20	3
他人からの軽視	上下関係侵害	5	3
	陰口	2	1
	不当な非難	4	1
	不公平	3	1
	約束反故	2	
	非援助	1	1
	配偶者の不義	1	1
	軽視	1	1
	計	19	9
物理的損失	金銭的損失	6	2
合計		89	17

注) 6 つの区分の内「身体的被害」に該当する誘因なし。

文 献

Averil, J. R. 1982. Anger and aggression. New York: Springer.
Cornelius, P. R. 1996. The Science of Emotion: Research and Tradition in the Psychology of Emotion. New Jersey: Prentice-Hall. 齊藤勇 (監訳) 1999 感情の科学 誠信書房.
Komin, S.. 1990. The Psychology of the Thai People: Values and Behavioral Patterns. Bangkok: National Institute of Development Administration (NIDA).

(Mitsuko HORIMOTO, Kiyoshi MAIYA)